

⑫実用新案公報 (Y2)

平4-54165

⑬Int.Cl. *

A 41 D 13/00
31/02

識別記号

庁内整理番号

C 2119-3B
K 2119-3B

⑭公告 平成4年(1992)12月18日

請求項の数 1 (全3頁)

⑬考案の名称 電磁波防止衣料

⑭実 順 平1-34359

⑮公 開 平2-125911

⑯出 順 平1(1989)3月28日

⑰平2(1990)10月17日

⑭考案者 新井倫夫 東京都渋谷区神宮前1丁目17番5号 東洋物産株式会社内
 ⑮出願人 東洋物産株式会社 東京都渋谷区神宮前1丁目17番5号
 ⑯代理人 弁理士 橋口盛之助 外1名
 審査官 鈴木美知子
 ⑰参考文献 特開 昭61-225301 (JP, A) 実開 昭62-51128 (JP, U)
 実開 昭61-155321 (JP, U)

1

2

⑪実用新案登録請求の範囲

ステンレス糸、導電性の良好な金属を鍍金した繊維糸、前記糸と他の繊維糸との混紡糸や混撹糸等の金属糸と吸湿性の良好な通常の繊維糸とを、片面に通常の繊維糸が表れるように織成又は編成した生地、または中間に前記金属糸が位置し、両側に通常の繊維糸が表れるように織成又は編成した生地を、前記通常の繊維糸を内面に向け内衣状又は下衣状に縫製して成ることを特徴とする電磁波防止衣料。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は電磁波が放射される職場などで作業する作業員が作業服の下に内衣又は下衣として着用して有用な電磁波防止衣料に関するものである。

〔従来の技術〕

電磁波が放射される職場などで作業員を電磁波から保護するために、従来は、作業服そのものに電磁波シールド性を持たせたものが使用されている。

〔考案が解決しようとする課題〕

然し乍ら、上記の電磁波シールド性を有する作業服は極めて高価であるため、電磁波の放射が比較的少ない職場で着用するには不経済であり、電磁波の放射が多い職場ではこれを着用しただけでは、万全を期することはできない。

従つて、本考案が解決しようとする課題は、電磁波の放射が比較的少ない職場で通常の作業服の下に着用すれば、電磁波が着用者の身体に悪影響を及ぼすことなく、また、電磁波の放射が多い職場や強い電磁波が放射される職場では、電磁波シールド性を有する作業服の下に内衣又は下衣として着用すれば、より一層の電磁波シールド効果を奏する衣料を提供することである。

〔課題を解決するための手段〕

本考案は上述の課題を解決することを目的としてなされたもので、その構成は、ステンレス糸、導電性の良好な金属を鍍金した繊維糸、前記糸と他の繊維糸との混紡糸や混撹糸等の金属糸と吸湿性の良好な通常の繊維糸とを、片面に通常の繊維糸が表れるように織成又は編成した生地、または中間に前記金属糸が位置し、両側に通常の繊維糸が表れるように織成又は編成した生地を、前記通常の繊維糸を内面に向け内衣状又は下衣状に縫製して成ることを特徴とするものである。

〔作用〕

本考案電磁波防止衣料は、これを電磁波が放射される職場での作業時に着用して人体を電磁波から遮蔽しようとするもので、電磁波の放射が多い職場や強い電磁波が放射される職場においては、更にその上に、電磁波作業服を着用すれば、電磁波が該作業服を透過しても内下衣の導電性の良好

な金属を鍍金した繊維糸の金属が前記電磁波を吸収するから、人体には電磁波が殆ど届かず、また、電磁波の放射が比較的少ない職場や比較的弱い電磁波が放射される職場においては、その上に通常の作業服を着用しても、該作業服を通して進入していく電磁波は前記と同様に繊維糸に鍍金した金属が電磁波を吸収するから、人体には電磁波が殆ど届かない。従つて、人体を電磁波から遮蔽するのに好都合であると共に、作業中に発汗しても、汗は通常の繊維が吸収するので、作業者は発汗による不快さを著しく軽減できる。

【実施例】

次に本考案の実施例を図により説明する。

1はアクリル長繊維1aの表面に導電性金属を鍍金して金属層1bを形成した金属糸、2は吸湿性の良好な綿を紡績して得た綿糸、3は上記の金属糸1、2を、金属糸1が外側に糸2が内側に、それぞれ表れるように編成して得た編布、4は中間に金属糸1が位置し、外側と内側に糸2が表れるように編成して得た編布である。

而して、本考案衣料は、上記編布3、4を縫製して第4図に示すような形状の衣料5に形成したものであり、編布3を用いたものは外側に糸1が表れ、内側に糸2が表れるようにする。尚、編布4を用いたものは外側、内側ともに糸2が表れる。

従つて、これを電磁波作業服又は通常の作業服と下着の間に着用する内衣として用いたり、或いは下着そのもの即ち下衣として用いれば、電磁波から人体を保護することができると共に、作業時

に発汗しても、糸2が汗を吸収するから、発汗に起因する不快さを著しく軽減できる。

尚、上記においては、金属糸1に、アクリル長繊維1aの表面に導電性金属を鍍金して金属層1bを形成したものを用いたが、本考案はこれに限られるものではなく、ステンレス糸又はそれと他の繊維との混紡糸や混撹糸を用いても良く、また、編布、織布における金属糸の成分は30~80%程度が望ましい。

10 【考案の効果】

本考案は上述の通りであるから、電磁波が放射される職場において作業に従事する作業員が内衣又は下衣として着用する衣料として好適であり、また、使用する糸は、導電性金属を鍍金した繊維糸と通常の繊維糸で織成や編成が容易であり、織物や編物を縫製するのも容易であるから、全体として低廉に作製提供することができる。

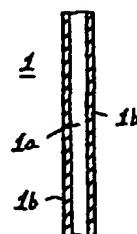
更に、本考案の衣料は、通常の繊維糸を内面に向け内衣状又は下衣状に縫製して成るものであつて、作業中に発汗しても汗を通常の繊維糸が吸収するので着用者は発汗による不快さを著しく軽減できる。

図面の簡単な説明

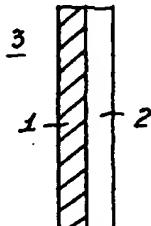
第1図は本考案電磁波防止衣料に使用する導電性金属を鍍金した糸の断面拡大図、第2図及び第3図は第1図々示の糸と通常の糸を用いて編成した編布の構成の断面拡大図、第4図は本考案衣料の正面図である。

1……導電性金属を鍍金した糸、2……通常の糸、3、4……編布、5……衣料。

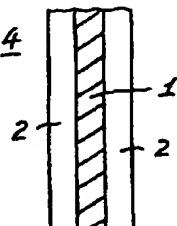
第1図



第2図



第3図



第 4 図

